

昭和貳拾年六月貳拾六日開催

第拾貳回通常社員總會議事録

法人團 同盟通信社

◎ 同盟通信社第拾貳回社員總會議事錄

昭和貳拾年六月貳拾六日午後壹時ヨリ東京都麹町區日比谷公園
貳番社由 法人同盟通信社ニ於テ當社第拾貳回通常社員總會ヲ
開催ス

總社員	八拾三名
此ノ表決權	八千九百九拾五票
出席社員	六拾壹名
此ノ表決權	八千五百六拾票

社長古野伊之助議長席ニ着キ開會ヲ宣シ昭和貳拾年六月拾壹日
附第拾貳回通常社員總會招集通知書ニ記載セル事項ニツキ議事
ニ入ルベキ旨ヲ告グ

法人同盟通信社

一、理事及監事補缺選舉ノ件

議長ハ定款第二十一條第一項第二號ニヨル理事小柳調平氏
(新潟日報社)ハ昭和十九年九月一日死去、又同坂口覺氏
(神戸新聞社)ハ同九月四日、同田中清文氏(北日本新聞
社)ハ同十一月二十八日、同浦田芳朗氏(京都新聞社)ハ
同廿年二月二十八日ニ夫々辭任セルヲ以テ又定款第二十八
條ニヨル監事遠藤柳作氏(東京新聞社)ハ昭和十九年七月
二十六日辭任シ理事四名、監事一名缺員ナルヲ以テ補缺選
舉ヲ行フベキナルモ恰モ本號ニヨル理事、全員ノ任期ハ六
月二十七日滿了トナルヲ以テ本日ソノ選舉ヲ行ヒ且ツ缺員
選舉、監事ノ補缺ヲモ行ヒ度旨諮リタル所與議ナク全理事
及監事ノ選舉ヲ行フコトニ決セリ、因ツテ議長ハ更ニ時局
現下ノ情勢ニ鑑ミ左ノ現理事七名ハ重任スルコトトシ缺員

中ノ理事四名、監事一名ニハ當該各社ノ新代表者ヲ夫々推薦シテハ如何トモリタル處之亦滿場一致異議ナク可決、選定サレタル理事、監事ハ何レモ就任ヲ承諾シタリ

△再任セル理事四名

- 山田 金次郎（東京 日報社）
- 一力 次郎（河北 新報社）
- 小坂 武雄（信濃毎日新聞社）
- 吉村 精一郎（秋田魁新報社）
- 伊豆 富人（熊本日日新聞社）
- 木下 猛（愛兒島日報社）
- 陸 保二（北國新聞社）
- △職員補充ニ新任セル理事四名
- 坂口 繁吉（新潟 日報社）

法人團 同盟通信社

- 横山 四郎右衛門（北日本新聞社）
- 後川 龍之助（京都新聞社）
- 朝倉 所道（神戶新聞社）

△定款第二十八條ニヨル監事壹名

- 田 恭助（東京新聞社）

次デ議長ハ第二、第三號議案ヲ報告スベキ旨ヲ告ゲ

第二號議案

イ、昭和十九年度事業及決算報告ノ件

昭和廿年六月二十六日開催ノ第卅二回理事會ニ於テ承認ヲ得タル昭和十九年度決算ノ内容ニ付詳細説明シタリ

ロ、昭和廿年度豫算報告ノ件

昭和廿年度豫算一般會計ノ概要ヲ説明シ次デ支那及南方ノ寺則會計ニ付説明シ不足額約六百三十萬圓ニ關シ

テハ當局ノ指示ニ從ヒ昭和廿年度助成金ノ一部ヲ以テ
取敢ヘズ補額スルコトトシ本年度ノ南方及支那ノ諸經
費ハ現地支辨トスル方針ニテ目下關係當局ト折衝中ニ
シテ近々解決ノ見通ミナリ

第三號議案諸般ノ報告

次デ議長ハ昭和十九年度中ニ於ケル事業中主ナルモノハ報
告書ニ記載シアルヲ以テ説明ヲ省略スル旨ヲ告ゲタリ

以上ヲ以テ報告終リ出席社員之レヲ諒承シタリ、因テ議長ハ第
拾貳回通常社員總會ノ議事ハ全席終了トシ、午後二時開
會ヲ宣ス

右會議ノ要領ヲ記シ左ニ署名捺印ス

昭和貳拾年六月 日

法人團 同盟通信社

議長

古野伊三助



出席社員

矢部謙次郎



出席社員

土田武夫



昭和十九年度事業及會計報告

法社
人團

同盟通信社

一、昭和十九年度^(自昭和十九年四月一日至同廿年三月卅一日)事業報告

本期に入りて大東亞戦争は愈々決戦の様相を呈し敵は比島、ビルマより漸次帝國の本土周邊に進攻するとともにマリアナ諸島より各都市に暴爆を加へ今や銃後は前線に直結するに至れり、加ふるに米軍は前線各基地よりの謀略放送と傳單による宣傳とを開始し國家代表通信社としてのわが社の責務愈々重大を加ふ、わが社は全國的な國內同報と専用電話線とにより國民戦意の昂揚と軍需食糧増産に貢獻し、全世界に指向する對外電信同報をもつて米英兩國の戦争目的を曝露し大東亞理念の眞義を闡明す

今や歐洲戦争は最終段階に入りて太平洋戦線に對する敵の重壓愈々加重せんとするの秋に當り我社は學社一體國內決戦態勢の確立を推進し敵の謀略宣傳を粉碎して報道報國の任務に邁進せんとす、本期中の重要事項次の如し

一、役員の変動

昭和十九年四月三十日 定款第二十一條第一項第一號による理事宮崎光男氏(讀賣新聞社)辭任、後任に中滿義親氏(同社)就任

同 五月十四日 定款第二十一條第一號第二項による理事原田棟一郎氏(神戸新聞社)死去

同 六月二十二日 同理事東口眞平氏(朝日新聞社大阪本社)辭任、後任に北野吉内氏(同社東京本社)就任、また同氏の後任に原田讓二氏(同社東京本社)就任

昭和十九年六月二十八日 定款第二十一條第一項第一號による理事河村徹氏(臺灣新報社)辭任、後任に坂口主

税氏（同社）就任

同 七月二十六日 定款第二十八條による監事遠藤柳作氏辭任

同 九月一日 定款第二十一條第一項第二號による理事小柳調平氏（新潟日報社）死去

同 九月四日 同坂口覺氏（神戸新聞社）辭任

同 十一月二十六日 同田中清文氏（北日本新聞社）辭任

同 十一月二十七日 定款第二十一條第一項第一號による理事高宮太平氏（京域日報社）辭任、後任理事に横溝光暉氏（同社）就任

定款第二十一條第一項第三號による理事矢野眞、同西邨知一兩氏（日本放送協會）辭任、後任として久富達夫、武藤義雄兩氏就任

昭和二十年一月十五日

理事古野伊之助、同畠山敏行兩氏定款第二十一條第一項第四號による理事任期滿了、十二月一日開催の第三十回理事會に於て再選、同定款第二十八條により古野伊之助氏は社長に畠山敏行氏は常務理事に就任

同 一月二十八日 定款第二十一條第一項第一號による理事杉山榮氏（合同新聞社）辭任、後任に橋本富三郎氏（同社）就任

同 二月三日 顧問光永星郎氏逝去

昭和二十年二月二十八日 定款第二十一條第一項第二號による理事浦田芳朗氏（京都新聞社）辭任

一、顧問推薦

昭和十九年六月二十六日開催の第二十九回理事會に於て承認を得たる顧問推薦の件は左の通り決定を見たり

光永星郎氏、小森七郎氏、田中都吉氏、正力松太郎氏、緒方竹虎氏

一、社員總會

本期間中開會すること左の如し

昭和十九年六月二十六日第十一回通常社員總會

一、理事會

本期間中開會すること左の如し

昭和十九年六月二十六日 第二十九回理事會

昭和十九年十二月一日 第三十回理事會

昭和二十年三月二十二日 第三十一回理事會

一、本期末に於ける社員數

昭和二十年三月三十一日現在社員總數は八十一社、三協會なり

一、本期末に於ける社員以外の通信購讀者數

時事通信 内地 一二、六二三

經濟通信 一二、一九三

一、職制の改正

昭和十九年十二月十五日附を以て取材の一元化を期し編輯局の政經部及社會部を廢止し内信部を設け之れに統合せり、又人員資材等運搬、輸送の圓滑を期し昭和二十年二月六日附にて運輸部を新設したり

一、對外電信同報

我社に於ては英語、佛語、スペイン語、華文、和文等合計一日約六萬語に上るニュースを電信同報によりて全世界に弘布し各國は盟邦たると敵國たるとに論なく大本營發表より銃後敢闘の實相に至るまで悉くこれによつて大東亞の現狀を知ることが得、世界戦争の現段階において我社の對外電信同報は帝國の主張を全世界に周知徹底せしむる殆ど唯一の機關なりと言ふべし

一、地方ニュースの全國的蒐集

戦局の現狀に鑑み前線と銃後を直結するため昭和十九年十二月二十六日より全国各地に於ける戦意横溢せる「郷土ニュース」を蒐集これを再編輯し電信同報及ラヂオ放送によつて前線並に内外地に報道しつつあり

一、海外宣傳機關との聯絡強化

昭和二十年二月より放送協會海外局編成部は我社海外局企畫部において執務し又同年三月より外務省の在外公館宛情報も外務省係員が同盟社に外向編輯する外情報局、放送協會並に我社海外局の代表を以て報道委員會を組織し對外宣傳戦に萬遺漏なきを期しあり

二、昭和十九年度(自昭和十九年四月一日起至昭和二十年三月三十一日)會計報告

(昭和二十年三月三十一日現在)

[illegible]

(口) 收支計算書 (一般會計)

(自昭和十九年四月一日起至昭和二十年三月三十一日)

收入之部	金額
新聞通信收入	五、四八五、六〇〇、〇三
經濟通信收入	四、九〇二、五二二、八三
海外通信收入	三、九七一、〇〇〇、〇〇
通信外諸收入	一、一一〇、四六五、七〇
寫真部收入	七八六、四七九、七六
出版部收入	一、五一四、一七九、三三
計	一七、七七〇、二三七、六五

支出之部	金額
總社費	二、三六三、五一五、七一
本支社費	四、六二九、三三五、六七
國內支社局費	三、九〇四、九五六、〇三
歐洲支社局費	八八五、〇六八、二九
國內電信電話費	一、〇七三、八〇一、五六
海外電信電話費	二、六〇三、八八一、三七
寫真部費	九八八、八五〇、二〇
出版部費	一、二八八、六二七、三八
小計	一七、七三八、〇三六、二一

當期剩餘金	三二、二〇一、四四
-------	-----------

計	一七、七七〇、二三七、六五
---	---------------

(ハ) 收支計算書 (支那特別會計)

收入之部	金額
通信收入	一三、六〇三、〇八八、八六
當期不足金	三、九九八、六二一、一九
計	一七、六〇一、七二〇、〇五

支出之部	金額
總社費	一、九二七、三六一、〇九
支社局費	一四、一七一、五三一、七二
電信電話費	一、五〇二、八一七、二四
計	一七、六〇一、七二〇、〇五

(ニ) 收支計算書 (南方特別會計)

收入之部	金額
通信收入	七、七九二、九一〇、五九
通信外諸收入	二〇五、一一一、六九
小計	七、九九八、〇二二、二八
當期不足金	二、二九〇、九七七、七一
計	一〇、二八八、九九九、九九

支出之部	金額
總社費	二、〇七四、九〇六、一二
支社局費	六、三九〇、二二三、六五
電信電話費	一、八二三、八七〇、二二
計	一〇、二八八、九九九、九九

(ホ) 財産目録

(昭和二十年三月三十一日現在)

科

目

計

土地	六八二、四二二、二一
家屋	六六七、九〇〇、〇〇
機械器具	二〇五、〇〇〇、〇〇
什器及備品	四七二、七七五、七六
所有有價證券	七一〇、一三六、〇〇
保證有價證券	一三六、〇五六、一五
保證有價證券	一三一、四〇五、四一
未收社員分擔金	七九八、〇〇五、〇〇
未收諸通信料	二六、四四四、六四
諸通信社立替金	二四九、一八九、三九
諸立替金	三三六、〇九四、一九
假拂金	二、七六三、一九〇、八四
銀行預金	一、三六三、五二七、五三
諸預金	三、五五九、五六
現金	一一四、九一六、三二
國內支社局手持現金	一六七、七七七、二八
海外總支社局手持現金	二七七、三九二、一三
事業權	三六八、三二五、〇〇

九、四七四、一二七、四一

右の通りに候也

昭和二十年六月

法人 同盟通信社

社長	古野伊之助
常務理事	畠山敏行
同	上田碩三
同	堀義貴
同	松本重治
同	鷹嘴
理事會長	高石眞五郎
同副會長	阿部暢太郎
同	山田金次郎
理事	伊藤正徳
同	一力次郎
同	伊豆富人

〇 東京日新
〇 河北野新
〇 徳平日新

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
嵯	坂	東	小	古	矢	山	野	中	高	横	大	小	原	橋	生				
峨	口		坂	村	部	本	中	滿	田	溝	橋	汀	田	本	田				
保	主	季	武	精	謙	實	楠	義	元	光	八	利	讓	富	武				
二	稅	彦	雄	郎	郎	一	吉	親	郎	暉	郎	得	二	郎	夫				
○昔帶			○佐隈每	○秋目魁															

右審查候處相違無之候也

同	同	同	同	同
末	光	木	北	
光	永	下	野	
正	眞		吉	
人	三	猛	内	

○龍見島日新

坂口 蘇吉 新海月報

横山 四郎左門 北畠

後川 晴之助 京都書水

朝倉 斯道 神戸書水

坂本 福田 恭助 東京書水

